

【OCGJVがコンサル 施工は五洋建設JVら パティンバン港の一部が完成・供用】

パティンバン港の
一部が完成・供用

OCGJVがコンサル
施工は五洋建設JVら

オリエンタルコンサルタンツグローバル（OCG）など6社で構成するJVが計画立案時からコンサルディング業務を担当してきたインドネシア最大級の国際貿易拠点となるパティンバン港の一部が完成し、供用を始めた。

同港開発は、総額約2000億円の円借款を活用して進められているプロジェクト。近年のインドネシアの急激な経済成長に伴う取扱貨物量の増加に対し、既存のタンジュンプリオク港だけでは対応が困難になるとの見通しから、首都ジャカルタの東約100kmに位置するスバン県パティンバンに新港を建設し、首都圏の物流機強化を図る。

同港近郊にある工業団地には、自動車や電化製品など製造業を中心とした多くの日系企業が集積しており、新たな港湾が完成することでこれら



日本企業より製造された車両が続々と大型車運搬船に積み込まれるパティンバン港

の企業の物流コスト削減も期待されている。

オリエンタルコンサルタンツグローバルとIdecs、日本工営の日本企業3社とインドネシアのコンサルタント会社3社による6社JVは現在、開発第1段階であるフェーズ1の施工監理業務を担当。施工は、人工島式港湾の埋立を担う第1工区を五洋建設と東亜建設工業、りんかい日産建設にインドネシアのPP社とウィジャヤ・カルヤ社を加えた5社JV、防波堤など港湾の外郭を建設する第2工区を東洋建設とアディ・カルヤ社、若築建設の3社JV、人工島へのアクセス橋梁建設

の第3工区はウィジャヤ・カルヤ社とPP社の2社JVがそれぞれ担当しており、軟弱地盤改良技術や急速施工技術など、日本企業の高技術が活用されている。

2020年12月20日に開かれた一部オープンを祝う式典にはジョコ・ウィドド大統領もウェブ参加し、同港を通じてさらなる経済成長に期待を寄せた。

同国政府では27年までにすべての施設を完成させたい意向だ。